

○ 研究内容

(1) 自尊感情について

自尊感情（セルフエスティーム）とは、「外見、性格、長所、短所、障がい、特技など、自分のすべての要素をもとに作られる自己イメージを客観的に見て自信を持ち、自分を大切にしようと思う気持ち」と、とらえたい。従って、自尊感情が高いということは、自己イメージが高く、「自分は価値のある人間だ。」と思うことができ、何か苦手なことがあっても、自分が好きで、「自分を大切にしよう。」という気持ちが強いということである。また、自分のよいところばかりではなく、「短所・弱点を含めて自分が好きで、大切にしたいと思うこと」が大切である。

その際、「自分は自分で、他人は関係ない。」という意識を肥大させてしまうのではなく、「自他を尊重する。」気持ちを育てていくことが大切である。

(2) 「友だちとのかかわり合い」（コミュニケーション力）について

人とかかわり合いとした場合、親や教師とかかわりのある大人、同じクラスに所属する児童や同学年・異学年の児童など、様々な対象がある。友だちとのかかわり合いとした場合にも、仲のいい普段最もかかわり合いが深い友だちもいれば、あまりかかわりのない友だちもいる。「友だち」を同じクラスに所属し、普段一緒に学校生活を送っている児童と考え、仲のいい級友も、かかわりが希薄な級友も含めて考える。

「かかわり合い」には、お互いにとってプラスになるようなかかわり合いもあれば、逆にマイナスに働くかかわり合いもある。かかわり合うときには、働きかける者とそれを受ける者がいる。

○ 実証授業

授業では、敬・愛組の友だちや先生との交流を重ね、敬・愛組のことを知り始めた子どもたちが、「敬・愛組の友だちも2年智組の友だちもみんなが楽しめることを考えよう」という共通の願いを持ち、みんなが楽しめる活動を話し合うことができた。

4 この事例から明らかになったこと

「敬・愛組の友だちとあそぼう」という単元を設定したことによって、今までかかわりの少なかった敬・愛組の友だちとくじらぐもを介して交流を始めた子どもたちが、「クラスの友だちも敬・愛組の友だちも、みんなが楽しめる活動を考えよう」という共通の目標を持ち、敬・愛組の友だちとかかわり、みんなが楽しめる活動を考えることを通して、友だちの得意なところや苦手なところを認め合い、相手の気持ちを考えながら、いろいろな友だちとかかわることができるようになってきた。

5 来年度への課題

- ・研究テーマにある「あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒」の姿を探り、人権同和教育の学習に取り組むことによってどんな力がついたのかを具体的にしていく。
- ・特別支援学級の児童との交流を通して、互いに高め合っていくことが大事である。自立活動のねらいを達成するためにも、人権同和教育の視点と合わせながら特別支援教育の考え方をリンクさせていくことが大事になってくる。

6 その他

なし